



To the experts and observers
in ISO/TMB/WG SR

ISO/TMB/WG SR 信託基金

拝啓

2008年9月にチリのサンチャゴで開催される社会的責任作業グループ総会を踏まえ、貴社又は貴組織から ISO/TMB/WG SR 信託基金への寄付を獲得するために、私達は貴方の行動を必要としています。私達は、貴社又は貴組織に SR 信託基金に寄付してくれるよう説得するか、又は、私達が貴社又は貴組織のリーダーに直接連絡を取る方が成功すると分かる場合には助言をしてくれるよう、貴方に要請します。

この WG SR 信託基金の目的は、代表が少ないステークホルダーグループが社会的責任作業グループの会合に参加することを財政援助すること、また ISO 社会的責任規格化のプロセスの中のある限られた意識向上と能力育成のイベントを支援することです。社会的責任規格 ISO26000 の信頼性及び ISO 内でのその開発プロセスを確実なものにするためには、ステークホルダーの参画を増やし参加者を増加させることが重要です。

貴方の募金活動を支援するために、広報用の文書「21世紀に社会的責任規格を定める:ユニークな ISO のグローバルパートナーシップを支援する寄付者へのご招待」を添付します。

多様性と独立性の原則を維持するために、SR 信託基金委員会は、寄付金の受理、資金の割当てを決定します。受理について SR 信託基金委員会は既に制約付き(途上国からの専門家、特定の地域/大陸又はステークホルダーのカテゴリーに限定するなど)の寄付についても受理することを決めています。

SR 信託基金に 1 万米ドル又はそれ以上寄付をした全ての組織は、報告書やコミュニケーション及び/又は社会的責任活動の中で、ISO SR 信託基金を支援していることを言及する権利を有します。

SR 信託基金 ログ使用ポリシーに関しては、添付の文書 N111 の中の附属書 1 を御覧下さい。

お支払いは、

米ドル: SWIFT(国際銀行間通信協会)経由で Svenska Handelsbanken(スウェーデン商業銀行)

SWIFT: HANDSESS 口座番号 6101-43288219

ユーロ: SWIFT(国際銀行間通信協会)経由で Svenska Handelsbanken(スウェーデン商業銀行)

SWIFT: HANDSESS 口座番号 6101-47917369,

参照事項 “WG SR Trust Fund(WG SR 信託基金)”を通じて行ってください。

SIS(スウェーデン規格協会)連絡担当者は Mrs. Ulla Bergsten, ulla.bergsten@sis.se

電話番号 +46 8 555 520 17 です。

更なる詳細情報は、次の添付文書をご参照ください。構成は次のようになっています。

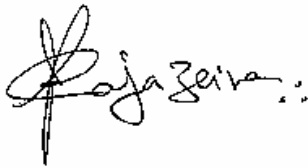
第一章：背景

第二章：SR 信託基金の目的と原則、SR 信託基金委員会及び事務局の役割、資金調達プロセスの概要と資金提供要件の概要

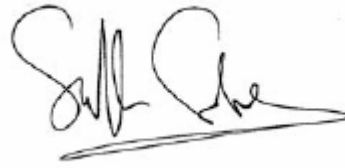
第三章：財政援助の原則、適格性・選定基準、申請プロセス

第四章：管理運営プロセスの概要

敬具



Jorge E.R. Cajazeira
ISO 社会的責任作業グループ議長



Staffan Söderberg
ISO 社会的責任作業グループ副議長

添付文書

N 111 文書－ISO/TMB/社会的責任作業グループ－SR 信託基金文書(附属書 1 と 2)

N 112 文書－21 世紀に社会的責任規格を定める: ユニークな ISO のグローバルパートナーシップを支援する寄付者へのご招待(原文のみ)



本文書の無断での引用・転載を禁じます。
(財)日本規格協会

Reference
ISO/TMB/WG SR
N 111, rev. 1
2008-02-01

ISO SR 信託基金

ISO社会的責任作業グループ

目次

1. 背景	3
2. ISO SR信託基金	4
2.1 目的.....	4
2.2 原則	4
2.3 委員会.....	4
2.4 事務局	5
2.5 寄付.....	5
2.6 必要と見積もられる資金.....	6
3. 財政援助	6
3.1 原則	6
3.2 適格性.....	6
3.3 選定基準	7
3.4 申請・選定のプロセス	7
附属書	
1. ISO SR信託基金 – ロゴ使用ポリシー	
2. ISO SR信託基金 – 管理運営プロセス	

1. 背景

社会的責任に関する新規格 ISO26000 の開発は 2005 年に着手され、2010 年まで続く予定です。この規格開発には、80 カ国を超える様々な国(そのうちの半分は途上国)が参加しており、また 6 種類の異なるステークホルダーグループ(産業界、政府、労働、消費者、非政府組織、“サービス、支援、研究、その他”)から 400 人を超える専門家とオブザーバーが参加しています。さらには、およそ 40 もの組織が関係機関として積極的な役割を果たしています。従って、これは現在活動している社会的責任に関する国際マルチステークホルダー規格開発プロセスの中で最も大きいものの一つとなります。ISO は、このプロセスは持続可能な発展という目的に向かって、産業界、市民社会及び政府の貢献を促進するというまたとない機会であると信じています。

この国際標準化プロジェクトに着手するという ISO の決定は、2005 年 1 月の新業務項目提案に関する投票によってなされました。正式決定は、ISO の内部及びステークホルダーとの徹底的な審議—2004 年 6 月のストックホルムにおける社会的責任に関する国際会議並びに 2004 年秋の ISO 技術管理評議会(TMB)における合意—に基づいてなれました。この新業務項目が提案したのは、この業務は TMB の責任下にある作業グループ(WG)において、ABNT(ブラジル規格協会)と SIS(スウェーデン規格協会)の共同リーダーシップの下で実施するのが望ましいということと、この WG は代表が少ないステークホルダーの参画を確実にするため、資金調達の仕組みの確立に対して責任を負うことが望ましいというものでした。

ステークホルダーのバランスは、WG のメンバーシップが独特の構成であることが示しているように、この業務の始めから関心事の中心でした。ISO の各会員は、各ステークホルダー分類から 1 名、合計 6 名までの専門家を指名する権利を持っています。社会的責任作業グループ(以下、SR WG)の手順は、ISO のプロセスの中でも独特な運営手順であり、代表発言権を持つ団長が率いる国家代表団を ISO の各会員が派遣するという通常のプロセスとは対照をなしています。SR WG の設立に続いて、ステークホルダーの関与を確実にし、限られた財源しか無い専門家の SR WG への参加を促進するための資金調達を支援するため、WG 内にタスクグループ 1(TG1)が設置されました。TG1 は目標を達成するため、ISO SR 信託基金の設立を提案し、WG のリスボン会合にてこの提案が承認されました。

リスボン会合の後、TG1 は WG 内の基金の仕組みの運営課題について合意し、ISO 理事会は WG SR リーダーからの ISO SR 信託基金設立に関する提案を次の条件のもとに承認しました。

- ISO SR 信託基金の事務局は、WG 事務局のスウェーデン規格協会の責任のもとに設置されること
- ISO SR 信託基金は ISO 26000 が発行されるまで試験的に運営されること

2. ISO SR 信託基金

2.1 目的

ISO SR 信託基金の主要な目的は、次のとおりです。

- ISO 26000 の開発において、多様なステークホルダー間でバランスの取れた代表参加を確実にすること
- ISO 26000 及びその開発プロセスの信頼性を確実にするために、ステークホルダーの参画を幅広く増加させること
- ISO 26000 規格化プロセスへの効果的な参加を可能にすること

基金は、これらの目的に適うよう、WG SR 会議に参加する専門家に財政援助し、また ISO SR 規格開発プロセスに関するある限られた意識向上と能力育成のイベントを支援するために使用されます。

2.2 原則

ISO SR 信託基金は、次の4つの主要原則に従って管理されますが、これらの原則は等しく重要であり、同時に考慮しなければならないものです。

1. 多様性の原則

資金を広く様々な財源から獲得できるようにするため、民間基金や民間企業を含め様々な寄付者を募ります。

2. 独立性の原則

一人の寄付者が SR 信託基金に対して支配力を振るうことがないようにするため、各寄付者は資金として必要と見積もられた総額の最大 20%まで寄付することができます。

3. 透明性の原則

資金の財源に関する情報を公開するために、寄付者名及び寄付金額の一覧は ISO 社会的責任作業グループのウェブサイトに表示されます。

4. 承認の原則

寄付者が行った寄付行為を周知するために、寄付者のロゴ及び総会会場でのバナーの使用が認められます。ISO SR 信託基金のロゴ使用ポリシーについては、附属書 1 を御覧下さい。また、他の形態での周知に関する要望については、ISO SR 信託基金委員会による承認が必要とされます。

2.3 ISO SR 信託基金委員会

ISO SR 信託基金委員会は、上記の原則に従って ISO SR 信託基金を管理するという責任のもとに設立しました。次の 12 人の委員で構成されます。

- 社会的責任作業グループ議長
- WG SR のステークホルダーグループにより選出された 6 ステークホルダーグループの代表 (3 名は途上国より選出される)
- WG SR コミュニケーションタスクフォース(TG2)リーダー
- TG1 議長及び事務局

- ISO 途上国対策委員会事務局

同委員会の役割と機能は次のとおりです。

- 財政援助選定基準の制定、見直し及び監視
- 専門家及びプロジェクトへの資金の割当て
- 寄付金の受理の決定
- ISO SR 信託基金に関する多様なパートナーとの開かれた意思疎通を図るためのフォーラム

2.4 ISO SR 信託基金事務局

ISO SR 信託基金事務局は、委員会の意思決定プロセスを支援し、財政援助プロセスを実施するという責任のもとで設立されました。スウェーデン規格協会(SIS)がISO 26000 発行までの試験期間中事務局となることに合意しました。

事務局の役割と機能は次のとおりです。

- 寄付金の集金及び管理
- ISO SR 信託基金委員会の意思決定のための文書類の作成
- 資金の調達状況、収支状況の説明及び寄付者への報告書の作成
- SIS の財務手順及び規則に則った ISO SR 信託基金の管理

2.5 寄付

資金調達プロセスを管理する責任は、TG1、TG2、ISO SR信託基金委員会及び事務局で分担します。TG1は、民間企業や民間分野に対する資金拠出促進を調整する一方、TG2は資金調達を支援するための宣伝資料を作成します。

多様性及び独立性の原則を支えるために、ISO SR信託基金委員会は、寄付金の割当てだけでなく、寄付金の受理についても決定を下します。寄付金の受理に関し、本委員会は既に例えば次のような制約付きの寄付も受理することを決めています。

- 途上国の専門家
- 特定の地域/大陸
- ステークホルダーのカテゴリー

SR信託基金に1万米ドル又はそれ以上寄付をした全ての組織は、報告書やコミュニケーション及び/又は社会的責任活動の中で、ISO SR信託基金を支援していることを言及する権利を有します。

SR信託基金 ロゴ使用ポリシーに関しては、附属書1を御覧ください。

事務局は寄付金を集金及び管理します。また、専門家及びイベント支援の寄付についての要望を集め、委員会による意思決定を手助けするための文書を準備します。事務局はWG SRに報告し、寄付者に対しては寄付金の使途について報告します。

2.6 必要と見積もられる資金

今後3回のWG SR総会の開催が予定されていて、毎回50人の専門家が財政援助を受けることが見込まれます。財政援助はエコミークラスの飛行機代、宿泊費及び食費・日当に使用されます。さらに、少数回の意識向上と能力育成のイベントの開催が計画されていて、イベントごとに最大2万米ドルまでの支援が行われます。

▪ 旅費	50人 x 総会3回	USD	375 000
▪ 宿泊費及び日当	50人 x 総会3回	USD	170 000
▪ 能力育成		<u>USD</u>	<u>200 000</u>
▪ 見積額		USD	745 000

3. 財政援助

3.1 原則

財政援助は、次の4つの主要原則に従って与えられますが、これらの原則は等しく重要であり、同時に考慮しなければいけないものです。

1. ステークホルダー中心の原則

代表が少ないステークホルダーカテゴリー及び地域の参加を奨励することに優先順位を与える

2. 透明性の原則

全ての候補者に同じ審査プロセスと首尾一貫した基準が適用される。

3. バランス維持の原則

異なるステークホルダーカテゴリー間及び地域間のバランスを保つ。

4. 継続性の原則

ISO26000規格開発プロセスに対する幅広い協議及びコミットメントを行うことを奨励する。

3.2 適格性

次の基準を満たす個人は、ISO SR 信託基金経由で財政援助を受ける資格があります。

1. 全ての国における、代表が少ないステークホルダーカテゴリー（即ち、消費者、NGO、労働、産業界¹）の専門家
又は
全てのステークホルダーカテゴリーにおける、代表が少ない地域(途上国)の専門家² 又はオブザーバー
2. 現在の又は将来のPメンバー、Oメンバー、又はDリエゾンメンバー³によって指名された人
3. 財政援助申請書を記入し提出した人

3.2 の注

1 中小企業

2 専門家：WG の活動に積極的に参加するために、ISO 会員団体又はリエゾン組織が指名した個人

3 P メンバー：作業に積極的に参加する ISO 会員団体で、正式に投票にかけられるすべての課題、照会のために配布された原案、並びに国際規格最終原案（FDIS）に関して投票する義務を負っている ISO 会員団体

O メンバー：オブザーバーとして作業に参加し、文書を受領し、意見を提出し、会合に出席する権利を持つことを望む ISO 会員団体

D リエゾン：WG が取り扱う課題に関する業務について技術的貢献をし、積極的に参加する団体

組織が参加に興味を表明した場合は、その D リエゾン地位に関する適格性及びその指名専門家の資金提供に関する適格性が最初に検証されます。

3.3 選定基準

次の基準を用いて、ISO26000 規格開発に最も貢献しそうな者を選定します。

財政援助に関する選定基準

コード	基準	説明
SC1	関与	以前に国際標準化活動又は SR 活動に携わったことがある又は現在携わっている
SC2	参加能力	ネットワークを作る能力があるという証拠を提示できる (即ち、代表又はリーダーシップの役割、語学能力、国内委員会の委員など)
SC3	有意義な貢献	規格の内容又は規格開発プロセスに有意義な貢献をすることができる潜在能力を実証できる (例えば、知識・経験の証拠、草案に対するコメント、提示案など)
SC4	事後報告書	以前に財政援助を受けたことがある場合は、事後報告書を提出している

3.4 申請・選定手順

財政援助を受けるための申請及び選定手順については次の通りです(附属書 2 もご覧下さい)

1. 情報の提供

ジュネーブの ISO 中央事務局にある ISO 途上国対策委員会 (ISO DEVCO) は、途上国の各国標準化機関 (NSBs) が国内の専門家へ配布するための情報及び申請書を提供すると同時に、WG SR 事務局が全ての WG 専門家へ配布するための情報及び申請書を提供する。

ISO SR 信託基金事務局であるスウェーデン規格協会は、情報及び申請書を途上国の NSBs と同時に WG SR 内の D リエゾン組織にも提供する。

2. 申請

財政援助を要請途上国の NSBs の専門家は、申請書を記入して国内の標準化機関に送付します。送付された申請書は NSBs により連署された後、ISO DEVCO に送られます。

財政援助を要請する先進国の NSBs の専門家及び Dリエゾン組織の専門家は、申請書を記入して NSBs 又は Dリエゾンにより連署された後、WG SR 事務局へ送られます。

3. 審査

ISO DEVCO は途上国の NSBs からの財政援助申請者の適格性を審査し、申請手順に関するガイダンスを提供します。

WG SR 事務局は、先進国の NSBs 及び Dリエゾン組織からの財政援助申請者の適格性を審査し、申請手順に関するガイダンスを提供し、申請書に連署した後それらを ISO SR 信託基金事務局に送ります。

ISO SR 信託基金事務局は、選定基準に従って、ISO SR 信託基金からの財政援助を受ける申請者の順位付けをし、申請書を委員会に転送します。

4. 選定

ISO DEVCO は、選定基準に従って、ISO DEVCO からの財政援助を受ける途上国出身の申請者を選定し、残りの全ての申請書を ISO SR 信託基金事務局に転送します。

ISO SR 信託基金委員会は、選定基準に従って、ISO SR 信託基金からの財政援助を受ける申請者を選定します。

5. 実施

ISO DEVCO は、選定者へ財政援助の確認をし、彼らの旅費、宿泊費及び日当の手配をします。

ISO SR 信託基金委員会は、選定された申請者のリストを事務局に提供します。

ISO SR 信託基金事務局は、選定された申請者に対して、財政援助の取り決めを確認し、彼らの旅費、宿泊費及び日当の手配をします。

附属書

1. ISO SR 信託基金—ロゴ使用ポリシー
2. ISO SR 信託基金 管理運用プロセス

12 June 2007

附属書 1: ISO SR信託基金 – ロゴ使用ポリシー

このポリシーは、ISO SR信託基金への参加及び種々の機会の案内と寄付者に関する考慮点の明確化を改善することを目的としています。

次の4つの分類を特定しました

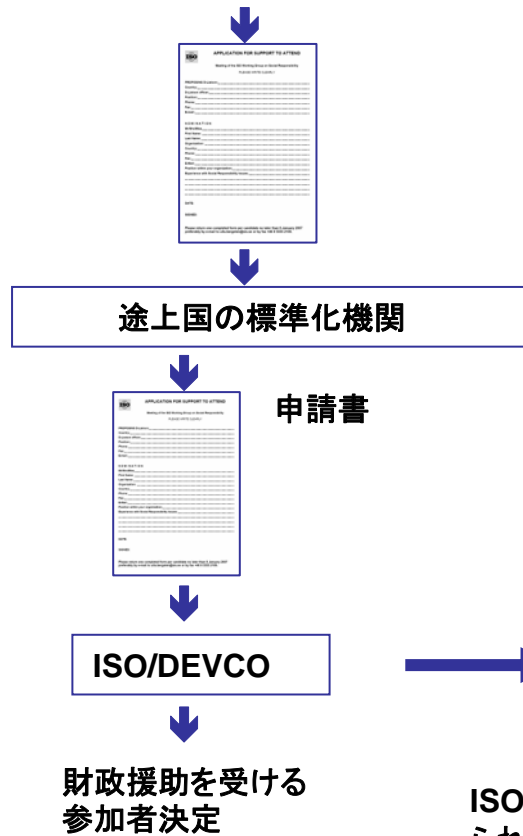
1	米\$100,000以上	メジャー・スポンサー
2	米\$50,000以上～米\$100,000未満	メイン・スポンサー
3	米\$10,000以上～米\$50,000未満	スポンサー
4	米\$10,000未満	貢献者

寄付者には各分類によって社会的責任作業グループ活動の内外において種々の機会があります。

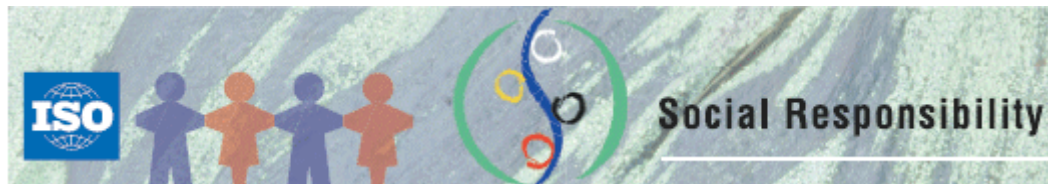
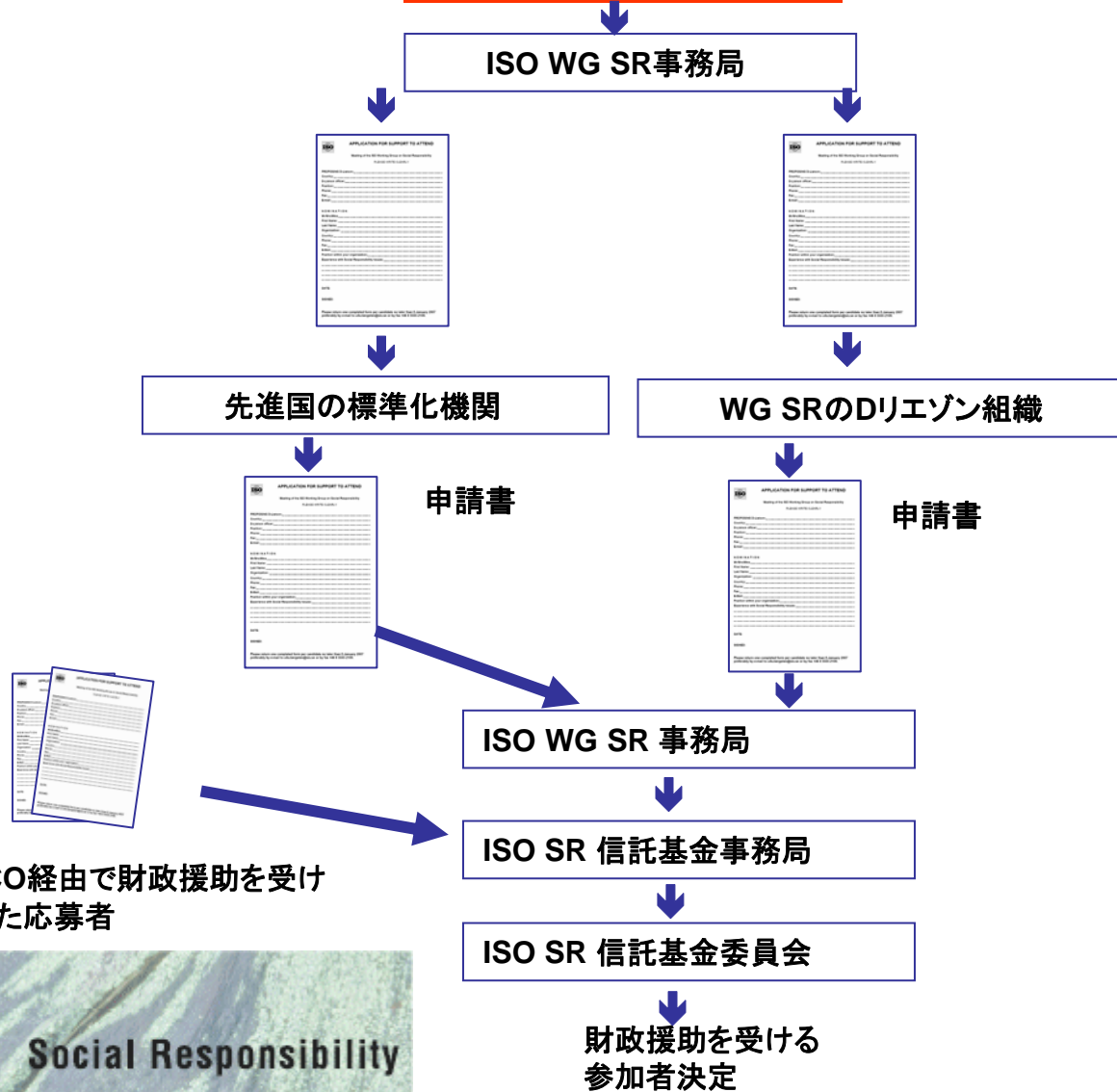
A	ISO/SRウェブサイト	1年間	1、2、3 : ロゴの表示 4 : 名前の表示
		資金援助期間	1、2 : ロゴの表示
B	ISO/SRニュースレター	全ての寄付者の基金及び名前の一覧の表示	1、2 : ロゴも表示
C	ISO/SR信託基金小冊子	アカウントビリティの目的と同様に資金調達にも有用な、社会的責任作業グループの参加者、寄付者、関連する活動についての情報の表示	1、2 : ロゴの表示 3 : 小ロゴの表示 4 : 名前の表示
		次回の再発行前にロゴを入れるために寄付者からの資金提供があるかもしれないが必要に応じて再発行する。	
D	CのISO/SR小冊子オンライン版	定期的に更新する	
E	ISO社会的責任イベント(資金/意識/認識向上)	可能な場合ISO社会的責任関連イベントにおいて所定の場所で基金と寄付者の情報を提供するセミナー -ワークショップ/能力育成活動 -社会的責任作業グループ総会 など	
F	全てのスポンサー組織は、報告書やコミュニケーション及び/又は社会的責任活動の中で、ISO SR 信託基金を支援していることを言及する権利を有する。		

附属書2:ISO SR信託基金運営手順

ISO 途上国開発委員会 (ISO/DEVCO)



ISO SR 信託基金事務局





Setting the Standard for Social Responsibility in the 21st Century: An invitation to donors to support a unique ISO global partnership.

'For our discussion is about no ordinary matter, but on the right way to conduct our lives'. Plato, The Republic

This brochure describes the potentially historic work being done by the ISO Working Group on Social Responsibility, and invites foundations and other potential donor organizations to consider supporting its important activities.

Introduction

As we move into the 21st century, several issues are becoming alarmingly clear.

The first is that the impacts of human development have multiple effects, good and bad. If sustainable development is to be achieved, finding a balance between the economic, social and environmental impacts of development is imperative.

The second is that no sector alone can address the complex issues involved. Even governments, which are responsible for setting societal direction, making regulations and giving clear market signals, require the support of business and civil society.

The third is that legislation – however good – is only one instrument for achieving progress. The transition to a sustainable world requires a broad-based social engagement built around common understandings and commitments.

In recognition of these challenges, the International Organization for Standardization (ISO) has adopted as the theme of its current 5 year strategic plan 'Standards for a Sustainable World'. Already the world leader in standards development, ISO is committed to developing standards that meet the practical needs of businesses and organizations everywhere.

The ISO approach is based on the twin strengths of a multi-stakeholder approach (which gives expertise and legitimacy to the product), and the benefits of a common global standard, available for voluntary use by all organizations around the world

What is ISO 26000?

This is the context in which the ISO Working Group on Social Responsibility was created. Its mission is a bold and urgent one: it is to draft the world's first ever international standard on social responsibility. The standard is to be known as ISO 26000.

While many national laws and international conventions exist on a wide range of 'social responsibility' issues, these differ between countries. Moreover, historic, cultural and other differences mean that there is no common understanding of the term.

How can a multinational company with a supply chain from Shanghai to San Francisco understand and respond to societal and legal expectations about labor issues? How can a small or medium size enterprise (SME) operating in an emerging economy be sure that it is observing international best practice? These are among the issues to be addressed.

The potential significance of the 26000 standard is enormous. Once agreed, it would provide all organizations – around the world – with guidance on how they can better understand the concept of ‘social responsibility’, and integrate the concept into their everyday operations.

While the exact contents are still under negotiation, it is expected that the proposed ISO 26000 Social Responsibility Standard will provide guidance on a wide range of issues affecting human and labor rights, and on environmental issues. It could also help to provide guidance on how the many existing standards, codes and initiatives might be understood and linked, and on the vital issues of stakeholder engagement and public communication.

The Working Group’s goal is to finalize a draft document that would be submitted for approval by national standards bodies in 2008. If adopted by ISO’s majority voting system, an International Standard on Social Responsibility would be published in 2009.

How is it being developed?

The ISO 26000 development process builds on ISO’s partnership-based approach. This seeks to bring together national standards bodies and issue experts from around the world to draft text that reflects the state of the art on an issue.

Over 350 representatives from government, industry, labor, consumer organizations, non-government organizations, standards bodies and consulting firms from 65 different countries are involved in the ISO 26000 process.

The Working Group has already held three meetings – in Salvador, Brazil (March 2005), Bangkok, Thailand (September 2005) and Lisbon, Portugal (May, 2006). The next meeting will be held in Sydney, Australia in January/February 2007. A further four meetings are expected over the next 18-24 months.

To ensure a balanced approach, particular care has been taken in the structure and composition of the Working Group. This can be seen from its joint Brazilian/Swedish co-chair leadership, the diverse and expert representation from the developing world, and the regional and sectoral balance in the various sub-groups.

While good progress has been made in ensuring balanced participation, largely thanks to financial support of a small number of governments and organizations¹, the Working Group has concluded that a more stable financial basis is required to assure breadth and continuity of representation.

Funding

Under traditional ISO arrangements, representatives and experts engaged in standards development fund their own participation. While this is not normally an issue for experts from government, industry and national standards bodies, it can be a particular problem for two categories of expert.

¹ The Working Group would like to gratefully acknowledge in particular the generous support of the Government of Finland, the Inter-American Development Bank, the Swedish International Development Co-operation Agency (SIDA), the Norwegian Agency for Development Co-operation (NORAD), the Japanese Industrial Standards Committee (JISC), the Swiss State Secretariat on Economic Affairs (seco) and the Austrian Development Agency (ADA).

The first includes experts from less wealthy countries, whether from the government, industry or civil society. Here, it is in the interests of the ISO process to ensure that the voices of developing countries, SMEs, consumer organizations or NGOs are heard and reflected in the process.

The second involves experts from less wealthy non-profit organizations that may be based in a developed country. Examples might include NGOs, SMEs, think tanks and related initiatives that do not have the resources to engage in the ISO process, but whose inputs are considered valuable in ensuring a robust ISO process and product.

Trust Fund

For these reasons, the Working Group has recently established a special Trust Fund, whose purpose is to provide a financial mechanism for funding the participation of stakeholders with limited resources in the ISO 26000 process. The goal is to create a fund which can be used to provide continuity of representation by such under-funded groups and organizations.

This figure is based on the assessed need to fund:

- Economy class travel and accommodation for up to 50 experts for four plenary meetings scheduled to be held over the next two years
- Capacity building workshops and trainings, particularly in the developing world, over the next year.

Under the terms of the Trust Fund, its objectives are to ensure balanced representation, to increase and broaden representation, and enable effective participation through the whole process. A special Trust Fund Committee comprising up to 12 representatives from ISO and the Working Group will be responsible for management of the fund and selection of the most eligible applicants.

In considering donations, particular attention will be given to four key principles:

- Diversity – funding will be sought from a variety of donors
- Independence – donation limits will protect ISO's independence
- Transparency – there will be proper disclosure of donation sources
- Recognition – appropriate recognition will be accorded to donors

Donations exceeding \$10,000 will require special approval, and have regard to the principles above.

In making grants, the Trust Fund Committee will have regard to agreed selection criteria, the composition and needs of the Working Group. In considering the eligibility of applicants from under-funded organizations, the Trust Fund will give special attention to issues such as the expertise of the organization, its ability to add value to the ISO process, its capacity to assure continuity of representation, and its commitment to report on its engagement.

The Trust Fund will be supported by a Trust Fund Secretariat, initially to be carried out by the Swedish Standards Institute (SIS). The Secretariat's functions will include collecting and managing donations, submitting funding applications, and generally ensuring the good management of the Fund.

Why Should I Donate?

Donations are now being sought from private companies and foundations, but donations from other sources – including governments – are encouraged.

Potential donors may find various reasons to support this initiative. These could include their desire to encourage:

- A common social responsibility standard that helps to raise awareness about social, economic and environmental issues in a way that gives globalization a framework of shared values;
- A partnership-based approach to collective decision-making at the international level, which brings business, government and civil society together to develop practical responses to shared dilemmas;
- A governance model relevant at both the national and international levels, that can help give voice to the interests and concerns of all sectors of society, and promote increased communication and understanding;
- A framework that might assist global trade and development by clarifying different perspectives and expectations and creating a basic operating tool relevant to all organizations;
- A standard that can assist developing countries and emerging economies better understand evolving consumer and regulatory issues, and thereby improve their capacity to anticipate market needs.

Other Benefits

The Trust Fund is conscious that donors will not only wish to know that their funds are being used to greatest effect, but to have their generosity recognized. For this reason, it will ensure that all donors receive regular electronic reports on the progress being made by the Working Group. Donors will also be given appropriate recognition on the relevant area of the ISO website and at all Working Group meetings.

Contact

If you wish to learn more about the ISO Working Group on Social Responsibility, or on how to make a contribution to the SR Trust Fund, please contact:

ISO SR Trust Fund Contact Point: Ulla Bergsten, SIS (ulla.bergsten@sis.se) +46 8 555 520 17

Donations

Electronic payments to the Trust Fund can be made into its account at the Svenska Handelsbanken using SWIFT at the following address:

HANDSESS a/c/6101-43288219 (Please reference 'WG SR Trust Fund')

ISO 26000

For more information on ISO 26000 and the ISO Working Group on Social Responsibility:

www.iso.org/sr

This website includes documents giving the background to ISO's SR initiative, documents and press releases on the progress of the work and how it is being carried out, the membership and structure of the WG SR, how to participate in the development of ISO 26000, a newsletter, development timeframe, FAQs, contacts and other information.